

家庭で行う感染予防：



感染性胃腸炎

ウイルスや細菌によりげりや、嘔吐などの症状を起こす胃腸炎を感染性胃腸炎とよんでいます。特に季節を限定することなく一年中発生していますが、冬場になると特に流行する傾向があります。特にノロウイルスによるものは、移りやすく「あっ」という間に家族や施設ではやってしまいます。小さなお子さんや高齢者のかたに移ると、脱水などにより入院が必要になる場合もあります。そこで、家庭内でできる予防方法をまとめておきます。できる限り実践していただくことをおすすめいたします。

1. げり・嘔吐などの症状がある人は、食事などの調理をしません。
2. 症状がある人とない人で、トイレの後に使用するタオルは分けて用意します。
3. トイレに行った後は、石けんと流水でしっかりと手洗いをします。
4. トイレの介助をする人は、少なくとも専用のエプロンを用意し、手袋、マスクを着用して行います。
5. 症状のない人が排泄物や吐物の処理をするときは、マスクを着用してから行います。処理した後は、いろいろなところに触らず、まず、石けんと流水でしっかりと手洗いをします。このときに使用する手ふき用タオルは、日常的に使用するタオルと分けて用意します。
6. げり便や嘔吐物で汚れた場所は、えんそけいひょうはくざい塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム）を使用してきれいに拭き取ります（これが、消毒になります）。拭き取る時は、ハイター（商品名）の場合、水1リットルにハイターキャップ2杯（50ml）で作るとよいです。ただし、製品によって濃さが異なりますのでご注意ください*衣類などについた場合、色落ちすることがありますのでご注意ください。
7. 嘔吐物などで汚れた衣服は、汚れを一度流水で取り除き、85℃以上のお湯に1分以上浸けた後、洗濯機で洗います。汚れを取り除くときなどは、マスクを着用します。
8. お風呂は、症状がある人とない人が一緒に入るのはできるだけ避けるようにします。症状のある人は一番最後に入るとよいかもしれません。お掃除は通常のお風呂用洗剤でかまいません。

